

地域の「絆」を、住民の「お守り」に。

岡山県津山市 高倉地域づくりの会

昨今、世間では、お隣同士の絆や繋がりが弱くなったと言われています。

しかし、そもそも「絆」って何？「絆」ってどうやって作るのか？

岡山県津山市北東部に位置する高倉地域は、人口約1600人（高齢化率32・9%）約720世帯が住む、自然に恵まれた地域である。専業・兼業農家が多く、昔からの顔なじみの関係がある一方、最近では新興住宅地もでき、面識の少ない家もあり、空き家も増えてきた。

高倉地域づくりの会では、令和元年に高倉地区の福祉課題を把握するため、中学生以上を対象としたアンケートを実施。そこから見えた地域の福祉課題として、①独居高齢者、

高齢者夫婦世帯の生活への不安。②電球交換や掃除等、日常のちょっとした困りごとへの対応が挙げられている。

この課題に対して、地域の絆部会では以下の順に沿って対応した。

①支え合いマップ作り

白地図上に独居高齢者は「赤」、高齢者夫婦のみの世帯は「黄」、空き家は「黒」、にマーキングしていき、どこに誰が住んでいるのかを可視化できるようにした。地域の実情や住民の状況を、地域住民自身が把握し、一人ひとりが安心安全な生活を維持できるように、ご近所福祉の充実を図ることを目的として作成。日常の支え合い活動や災害時の要援護者



コロナ禍に感染対策しながら聞き取り調査をしました





みんなを元気にしたい！エイエイオー！



地域の絆をつなげる「絆つなげ隊」換気扇掃除

られている。リピーターもあり、ごみ出しや居室の掃除の依頼も来た。

開始したばかりの事業で件数に目がいってしまいがちだが、大切なのは住民に周知されること、信頼されること。高齢になり、今まではできていたことが少しずつできなくなった時、「確か、絆つなげ隊ってあったよなあ・・・」と思ってもらいたい。困った時に、助けてくれる場所があるのは、安心にもつながる。

④ 紙芝居作成

現在の素晴らしい高倉があるのは、先人たちが歴史と絆をつなげてきてくれたからである。今後の高倉を支える子どもたちが、進学や就職でこの地を離れたとしても、また戻ってきたい場所となるように、地域の歴史を学ぶ機会を作っている。江戸時代に作られた12kmにも及ぶ近平用水や日本有数の飲料会社創始者の生家、元禄一揆の立役者の顕彰碑等について、まち歩きをしながら長老から話を聞くような行事も実施した。高倉の歴史についての紙芝居を地元高校生らと一緒に作成し、地元の健康福祉まつりで披露した。また、歴史に興味のある他地域から紙芝居の貸し出し依頼があり、貸し出し名簿を作成し、お貸ししている。これからも高倉の歴史と絆を若



高倉の歴史についての紙芝居を披露

い世代にも楽しみながら継承していきたい。

高倉を大切に思う気持ちが、様々な取り組みに繋がっている。その気持ちは必ず高倉住民の支えになる。「絆」は作るものではなく、人と人との関わりから生まれるもの。地域の絆部会は、そのきっかけづくりをこれからも楽しんでいく。

(高倉地域づくりの会)

地域の絆部会部会長 植月豊子